

エアゾール缶等による火災・事故をなくそう

《エアゾール缶等に関わる火災及び事故の発生状況》

1 火災の発生状況

エアゾール缶及びカセットボンベ（以下「エアゾール缶等」という。）による火災は過去10年間で1,161件発生しています。平成22年に176件を記録しましたが、平成23年以降減少傾向で推移しており、令和元年は平成22年と比較して57%減となる75件の発生で、平成29年以降100件を下回っています（図1）。

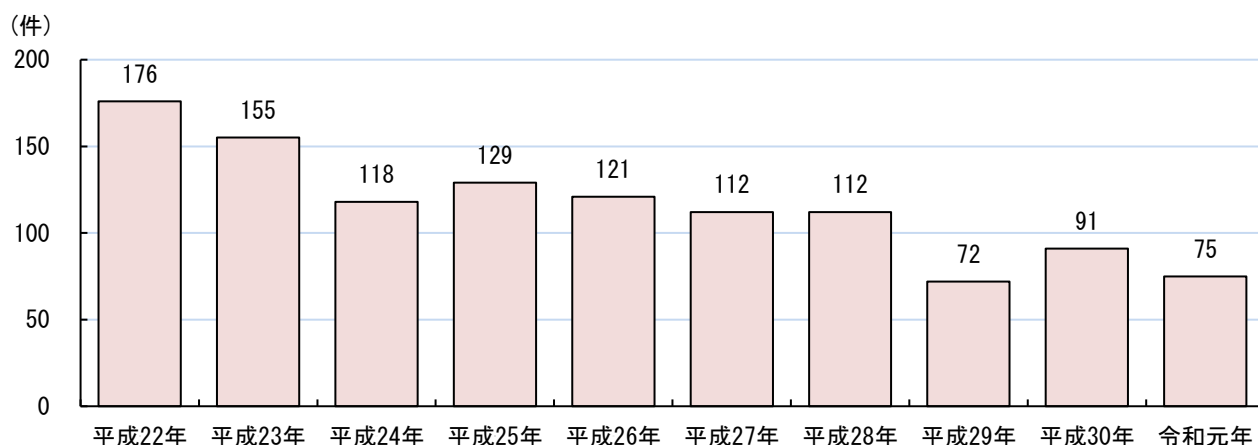


図1 エアゾール缶等による火災発生件数の推移（過去10年間）

令和元年中におけるエアゾール缶等による火災の主な原因は、最多が「清掃車」の17件（22.7%）、次いで「穴開け」の13件（17.3%）などとなっています。過去10年間で見ると「清掃車」は449件（38.7%）、「穴開け」は246件（21.2%）でこの2項目で6割近くを占めています（表1）。



火災発生要因の「清掃車」とは、エアゾール缶等の廃棄方法や分別が不十分であったため、清掃車内で発生した金属の火花が残存ガスに引火し出火したものです。

また、「穴開け」とは、エアゾール缶等を廃棄する目的で、缶に穴を開けた際に、近くで使用していたガスこんろの炎等が、噴出した残存ガスに引火し出火したものです。

表1 エアゾール缶等による過去10年間の火災発生状況

火災発生要因	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	合計
清掃車	104	77	52	51	45	41	32	16	14	17	449
穴開け	23	23	26	30	29	25	36	21	20	13	246
その他(廃棄)	15	11	6	8	3	8	3	2	2	3	61
暖房器具近接	6	7	6	7	5	5	3	5	10	7	61
厨房器具近接	6	3	7	8	10	2	3	5	9	7	60
装着不良	3	9	4	7	8	5	4	4	7	5	56
その他 (取扱不適含む)	19	25	17	18	21	26	31	19	29	23	228
合計	176	155	118	129	121	112	112	72	91	75	1,161

過去10年間のエアゾール缶等に起因する火災による死傷者は565人で、死者が2人、負傷者が563人発生しています。このうち中等症以上のけがを負った人(死亡を除く。)が4割以上を占め、顔や気道などにやけどを負っています(表2・表3)。

表2 エアゾール缶等による火災の死傷者発生状況(過去10年間)

年別	火災 件数 (件)	死傷者 数合計 (人)	負傷者数(人)					死 亡 (人)	中等症以上の 負傷者数 (人) (死亡を除く。)	中等症以上の 割合 (%) (死亡を除く。)
			小計	軽症	中等症	重症	重篤			
平成22年	176	64	64	38	19	6	1	-	26	40.6
平成23年	155	62	62	38	14	9	1	-	24	38.7
平成24年	118	41	41	17	16	8	-	-	24	58.5
平成25年	129	55	55	29	17	6	3	-	26	47.3
平成26年	121	61	60	31	21	7	1	1	29	48.3
平成27年	112	59	59	35	17	6	1	-	24	40.7
平成28年	112	73	73	41	27	4	1	-	32	43.8
平成29年	72	42	41	25	11	3	2	1	16	39.0
平成30年	91	57	57	37	15	3	2	-	20	35.1
令和元年	75	51	51	31	14	3	3	-	20	39.2
合計	1,161	565	563	322	171	55	15	2	241	42.8

- 軽症・・・輕易で入院を要しないもの
- 中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- 重症・・・生命の危険が強いと認められたもの
- 重篤・・・生命の危険が切迫しているもの

表3 エアゾール缶等による火災の受傷部位別負傷者数（過去10年間合計）

受 傷 部 位	熱 (火) 傷	挫 傷 (創)	気 道 炎	咽 喉 炎	擦 過 傷 (創)	切 創	一 酸 化 炭 素 中 毒	打 撲 傷	そ の 他	合 計
顔 部	161	1	-	-	-	1	-	1	1	165
気 道	92	-	6	5	-	-	-	-	10	113
手 部 (手のひら)	61	2	-	-	4	2	-	-	-	69
前腕部(肘から先)	52	-	-	-	-	-	-	-	2	54
上 半 身	32	-	-	-	-	-	-	-	-	32
上腕部(肘から上)	30	-	-	-	1	-	-	-	-	31
全 身	22	-	-	-	-	-	3	-	6	31
頭 部	20	1	-	-	-	1	-	1	3	26
足 部	13	2	-	-	-	-	-	-	1	16
下腿部(膝から足首)	10	2	-	-	-	-	-	-	-	12
そ の 他	11	-	-	-	-	-	-	1	2	14
合 計	504	8	6	5	5	4	3	3	25	563

2 事故の発生状況

エアゾール缶等による事故*は過去10年間で114件発生しています。「その他」を除く過去10年間の事故原因を見ると、最も多いのは廃棄するためにエアゾール缶等に穴を開けた際に噴出した残存ガスに、ガスこんろ等の炎が引火してやけどを負うなどの事故で、37件発生しています（表4）。

（※「事故」とは、火災に至らず、やけど等のケガを負ったものです。）

表4 過去10年間のエアゾール缶等による主な原因別事故件数

主 な 原 因	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	合計	割合 (%)
穴 開 け	8	2	10	1	3	-	5	2	6	-	37	32.5%
その他(廃棄)	1	-	-	2	2	1	2	3	-	-	11	9.6%
厨房器具近接	1	3	2	3	1	-	-	-	3	-	13	11.4%
暖房器具近接	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
装着不良	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	1.8%
そ の 他 (取扱不適含む)	9	4	6	4	6	3	7	7	2	3	51	44.7%
合 計	19	9	20	10	12	4	14	12	11	3	114	100%

《近年発生したエアゾール缶等に起因する火災・事件事例》

● 事例 1

飲食店で、調理中の食材に焦げ目をつけるためにガストーチバーナーにカセットボンベを接続し点火したところ、ボンベとの結合部分から漏れていたガスに引火し出火した。

(建物ぼや)

(40歳代 軽症)

● 事例 2

ガスファンヒーター吹き出し口近くにある殺虫剤が熱せられ、スプレー缶の内圧が高まり破裂し、ガスファンヒーターのバーナーの炎で引火し出火した。

(建物ぼや)

(90歳代、70歳代 中等症)

● 事例 3

住宅の廊下にて、害虫駆除のために殺虫剤を噴射し、その後ライターを使用したところ、滞留したガスに引火し、顔面、腕及び足を受傷した。

(30歳代 中等症)

● 事例 4

台所で調理中に虫が出たため、台所にあったスプレー式殺虫剤を噴射したところ、ガスこんろの火が殺虫剤に引火し、前腕を受傷した。

(80歳代 軽症)

● 事例 5

消臭スプレー缶のガス抜きをするため、缶に穴を開けた際に、調理中の火がガスに引火し、受傷した。

(30歳代 軽症)

《エアゾール缶等の火災・事故を防ぐために》

- ① エアゾール缶には、LPG などの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認してください。(エアゾール製品は、本来の用途以外に使用しないでください。)
- ② やむを得ず使い切らずに捨てる時には、火気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射し廃棄してください。
- ③ エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨ててください。
- ④ エアゾール缶等は、厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しないでください。
- ⑤ カセットボンベは、カセットこんろ本体に正しく装着されていることを確認してから使用してください。
- ⑥ カセットこんろを複数並べて鉄板をのせること、カセットボンベカバーを覆うような大きな鍋等の使用や、練炭等の炭おこしは、燃料ボンベが過熱され、破裂する危険がありますので絶対に行わないでください。

※ 火災を防ぐためにガス抜きキャップを使ってエアゾール缶等の中身を出し切る廃棄方法を、一般社団法人日本エアゾール協会のホームページで紹介しています。詳細は、下記QRコードから確認できます。

必ずお守りください

SPRAY スプレー
GAS ガス
スプレー缶(エアゾール缶) カセットボンベは **必ず中身を使い切りましょう!!**

火災事故が多発しています!

中身の残ったスプレー缶、カセットボンベがごみに出されごみ収集車や、ごみ処理施設で、火災が発生しています。

スプレー缶の場合↓

正しいごみへの出し方 4step!

step 1 缶を手で握って中身の有無を確認してください。

step 2 「シヤクシヤク」「ツツツツ」など音がしたら、缶の中身が空っぽです。必ず使い切りましょう。

step 3 音がしなくても、缶の中身がガスが漏れている場合があります。「ガス抜きキャップ」で出し切ってください。

step 4 地域の「ごみ出しルール」を守って出しましょう。

中身のガスを出し切るために、ガス抜きキャップを使いましょう!

スプレー缶にはガスを出し切るための**【ガス抜きキャップ】**が装着されています。

※製品によっては、**【ガス抜きキャップ(中身排出機構)】**、**【ガス抜きキャップ(残ガス排出用)】**、**【ガス抜きキャップ(ボタン)】**等の表記を行うものがあります。

▼**例**、下記のスプレー缶(エアゾール缶)製品には、ガス抜きキャップは付いていません。
【例】 ●炭酸ガス、窒素ガス等の不燃性ガス使用商品(商品の表示をご覧ください)

ガス抜きキャップを使う時には…

中身を使い切ってから、
 風通しが良く、火気のない屋外で、
 風下に向けて、人などにかからないように
 新聞紙などに吹き付けるなどをして、
 風上への飛散にご配慮ください。

カセットボンベには、**【ガス抜きキャップ】**は付いていません。
カセットこんろはヒートパネルを搭載しています。(2007年4月生産分より)

ヒートパネルとは?(詳細は別紙参照)

カセットボンベを置換する際、最後まで残ったガスは、ヒートパネルで燃焼させて取り除くことができます。

カセットボンベのガス抜きについてのご質問は、
 一般社団法人日本エアゾール協会
 0120-14-9996

●エアゾール製品処理対策協議会
 一般社団法人日本エアゾール協会(エアゾール製品処理対策協議会事務局 03-5207-0950) HP: <http://www.aer.or.jp/>
 日本化学工業協会 一般社団法人日本化学工業協会 日本化学工業協会 日本化学工業協会 日本化学工業協会
 日本電気工業協会 日本電気工業協会 日本電気工業協会 日本電気工業協会 日本電気工業協会
 日本オートクビシ工業協会 日本オートクビシ工業協会 日本オートクビシ工業協会 日本オートクビシ工業協会 日本オートクビシ工業協会

●中央道正処理困難指定廃棄物対策協議会



一般社団法人
日本エアゾール協会HP